# クリーン四国

No.1170
2017年
9月号

## 特集 シカ被害対策及びジビエ活用推進協定を締結

平成29年8月12日、ニホンジカによる森林被害防止とシカ肉等のジビエ活用を推進するため、四万十森林管理署と梼原町及び梼原町猟友会は、協定を締結しました。

写真（上）：左から、四万十森林管理署長、梼原町長、梼原町猟友会会長　写真（下）：移動式解体処理車（通称：ジビエカー）納車式の様子

目　次

・四国森林管理局業務管理官交代「新任あいさつ」…… 2
・新しい時代の森林管理をめざして …… 3
・特集 シカ被害対策及びジビエ活用推進協定を締結…… 4
・「国有林モニター勉強会」を開催 …… 6
・無人航空機の災害時の活用に関する勉強会を開催…… 6
・「針広混交林化を目指した施業に係る現地検討会」を開催…… 7
・毎年恒例、好評の「夏休み親子ふれあい木工教室」開催 …… 8
・各地のたより …… 9
・「日本美しの森 お薦め国有林」の紹介 第４回「滑床自然休養林」 …… 11
・シリーズ 四国の森林からこんにちは…… 12

四国山の日

四国森林管理局
高知市丸ノ内１丁目３－30
ＴＥＬ 088－821－2052
ＦＡＸ 088－821－4834
Ｈ　Ｐ http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

四国森林管理局業務管理官交代

# 「新任あいさつ」

業務管理官　江坂　文寿

この度、8月1日付けで業務管理官を拝命しました江坂です。よろしくお願いします。

愛知県に生まれ育って、林野庁へ就職して以来、東北局、中部局、近畿中国局、九州局の各管内での勤務経験はありましたが、四国森林管理局での勤務は初めてとなります。人工林率が高く、林業が盛んな四国で勤務できることは、大変光栄であり身の引き締まる思いです。

また、四国には日帰りできる秀峰が多いと聞いています。ゆっくりと一人で低山中心にハイキングすることを休日の楽しみとしており、これから国有林の内外を問わず四国の山々を訪ねようと思っています。

さて、国有林野事業も一般会計化して四年が経過しました。この間、職員の皆さんには、県や市町村の民有林行政との一層の連携に取り組んでいただいていることと思います。この過程で、内向きでなく外向きの視線で、さらに第三者の視座をもって我々の業務のあり方を考える重要性に思い至ったことでしょう。そして、国有林に対する地域や国民からの期待・要請を強く意識するようになったことと思います。

国有林野事業が一般会計となったことの成果が問われています。その評価に当たっては、国有林が行っている事業や取組が地域や国民にどれだけ認知され受け入れられているか、が重要となります。

そのため、県、市町村、林業関係者などと共有できた地域林政の課題の中から、国有林としてできることを一つ一つ具現化し、成果として取りまとめ民有林へ横展開していく。そのようなプロセスの中で、国有林の行う事業・取組が評価され、四国森林管理局の存在感が一層高まればと考えています。

これから、多くの現場を見させていただき、また様々なことを教えていただきながら、職員の皆さん、行政や事業者、地域の方々とともに、林業の成長産業化など林政の重要課題に取り組んでいきたいと考えています。

四国局の諸先輩や現職の皆さんが築き上げてきた、素晴らしい森林や伝統、地域との良好な関係が、今後も継続し発展していくよう努力して参りますので、よろしくお願いいたします。

# 「新しい時代の森林管理をめざして」

前業務管理官　木村　穣

これまでで最も印象深かった勤務場所はどこかと問われれば、「それぞれに忘れがたい経験を経てきており、どことも選びがたいが・・・、四国局です。」とローマの休日のラストシーンのアン女王のごとくきっぱりと答えることでしょう。

四国局に勤務させていただいた2年4ヶ月は、長いような短いような期間でした。特に平成29年に入ってからは、様々な活動にエンジョイさせていただき、あっと言う間に時間が経ってしまった感じです。私が忙しく動く度に、多くの職員の皆様にご迷惑をおかけしましたが、過ぎ去ったこととしてご容赦いただければと思います。

皆様もご存じのように、私は新しい技術が好きです。その可能性を最初に感じたのは、携帯電話でした。携帯電話が爆発的に普及した時代に、私はフィリピンに駐在しておりましたが、現地では、それまで電話回線網が普及していなかったことが幸いして、日本よりも速いスピードで携帯電話の普及が進んでいたのです。新しい技術の導入は、それまで周回遅れだった場所・ものをトップランナーに変える潜在力をもつのだと実感しました。

ただし、新しい技術を導入するにはそれなりに高いハードルを越えなければなりません。技術を受け入れるだけの基礎知識が必要ですし、なによりも自分たちに恩恵をもたらしてくれること信じて、強く求め続けることが重要です。その点で、四国森林管理局は新しいことに挑戦してみようという職員が多く、素養は十分にあります。

実際に、様々な試行錯誤が日々行われており、在勤中は、その試みのなかのいくつかをお手伝いさせていただきました。自分的には相当の労力をかけて取り組んだものが評価されなかったり、逆にあまり深く関わるつもりのなかったものにどっぷりと漬かる結果になったりと、意外な展開の連続でした。

実際に取り組んで実感したこととして、四国森林管理局では、何か新しいことを始める場合に事前の準備に相当の労力を要しますが、一旦始まると全体への普及が比較的容易だということがあります。また、周回遅れな部分がいくつかありますが、それを裏返してみれば、四国森林管理局は可能性の塊だとも言えます。その利点を活かして、今後もどんどん新しいことにチャレンジし、日本の森林・林業を牽引する役割を担って頂ければと思います。陰ながら応援しております。

特集

# シカ被害対策及びジビエ活用推進協定を締結

## ～有害鳥獣被害対策の新たな仕組みが始まる～

〈四万十森林管理署〉

8月12日、高知県梼原町は有害鳥獣として捕獲したシカやイノシシの肉を地域資源として有効活用するために、世界初の移動式解体処理車（通称：ジビエカー）を導入しました。

同日、ジビエカーの導入に併せて四万十森林管理署は、梼原町及び梼原町猟友会と「シカ被害対策及びジビエ活用推進協定」を締結しました。

以下、①今回締結された協定、②ジビエカー、③梼原町におけるシカ被害対策、④ジビエカー納車式典の模様を紹介します。

### ①シカ被害対策及びジビエ活用推進協定について

この協定は、梼原町、梼原町猟友会及び当署が、シカ被害対策の協力体制を構築し、梼原町内の国有林及び近接する民有林において、シカによる森林被害の防止とシカ肉等のジビエ活用を推進するために締結したものです。※1

この協定に基づき、当署では、梼原町に四国森林管理局が開発した囲いわなを無償貸与します。また、猟友会に対して囲いわなの設置方法に関する技術指導を行うとともに、協力して囲いわなの巡視等を行い、巡視結果については、3者で情報共有することとしています。

協定調印式の様子

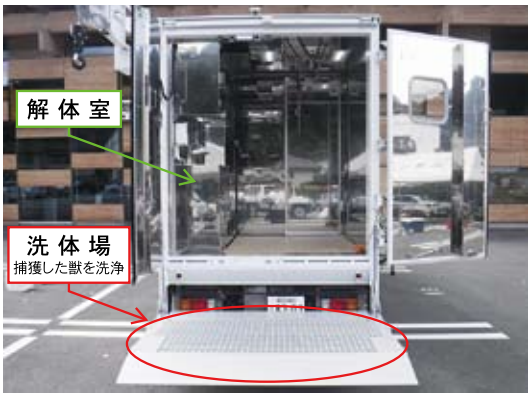
### ②ジビエカーはどんな車？

ジビエカーは、一般社団法人・日本ジビエ振興協会と長野トヨタ自動車が共同開発し、2016年7月に完成した特殊車です。※2

ジビエカー（右側面）

捕獲した野生獣を車外で洗浄し、荷台に備えた解体室で解体した後、車内の冷蔵庫で保存することができるため、運搬の手間や時間が軽減でき、廃棄率の低減、利用率の向上に繋がります。

また、野生鳥獣肉の処理に関して徹底した衛生管理を実現した設備・設計になっており、より良質な食肉利用が期待されます。




ジビエカー（解体室・洗体場）

### ③梼原町におけるシカ被害対策

梼原町では、生息数が増加傾向にあるシカの被害対策として、▼捕獲者への報奨金の支給▼新規狩猟者確

保の為に、資格取得に必要な教習会受講等にかかる費用の一部補助等に取り組んでいます。

これらの取組により、駆除数が増加し、被害の拡大を防いでいますが、捕獲・駆除したシカを処理する手間や費用の増加が問題となっており、ジビエカーが、問題解決の切り札になるものと期待されています。

また、梼原町では来春、獣肉解体処理施設が完成予定となっており、ジビエカーと併せて効率的なシカ捕獲と利活用のサイクル構築が期待されています。

### ④ジビエカー納車式典

8月12日、ジビエカー導入を記念して梼原総合庁舎前で納車式典が開催されました。

式典には山本有二前農林水産大臣のほか国、県の行政関係者ら約60人が出席し、納車を祝いました。

四国森林管理局からは江坂業務管理官、森谷森林整備部長、佐賀四万十森林管理署長、森田梼原森林事務所森林官が出席しました。

ジビエカー前にてテープカット

矢野梼原町長は、式典のあいさつの中で「ジビエカーを利用して、今まで山に捨てていた資源をお金に換え、ビジネスとして成立させることで、地域の雇用創出が生まれる。また、地域が活性化し、地方創生にも繋がる。この仕組みを梼原町で成功させ、全国にも発信していきたい」「四万十森林管理署と締結した協定をもとに、国からの支援も受けながら、より効果的な鳥獣捕獲を梼原町で確立していきたい」と述べられました。

式典終了後は、高知市にあるジビエ料理専門店「ヌックス・キッチン」によるジビエ料理の試食・紹介があり、その美味しさから、ジビエ肉の更なる消費拡大に出席者からの期待が寄せられていました。

また、囲いわなについても、四国森林管理局森林技術・支援センター職員がわなの紹介や組み立て実演を行い、その手軽さから、捕獲の省力化・効率化に猟友会関係者からの期待の声があがっていました。

囲いわなの組み立て実演の様子

※1：四国森林管理局ホームページ参照。
http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/release/hukyu/170815_1.html
※2：日本ジビエ振興協会ホームページ参照。
http://www.gibier.or.jp/gibiercar/aboutcar/

# 「国有林モニター勉強会」を開催

〈企画調整課〉

7月27日、高知県長岡郡本山町で、平成29年度第一回国有林モニター勉強会を開催しました。当日は、天候にも恵まれ、四国4県から国有林モニター17名が参加されました。

勉強会参加者の皆さん

開会にあたり野津山局長から、「実際に川上の間伐事業実施現場や、川中の市場業務の役割、川下の木材利用の研究開発と利用の促進について見ていただき、国有林や森林について、理解が深まる勉強会になれば幸いです。」との挨拶がありました。

まず、嶺北森林管理署管内の国有林において、高性能機械による間伐事業の説明を受け、その後、造材・積込作業や実際の伐倒作業を見学しました。

現場の天候が怪しくなったことから、下山し、早明浦ダム公園にて昼食を済ませ、繁藤ストックヤードに向かいました。繁藤ストックヤードでは、市場業務についての説明を伺い、モニターからは、実際の原木を前に「この木は幾らぐらいするの」等の質問がありました。

市場業務見学の様子

また、高知県森連会館においては、CLTを利用した木造建築に興味津々で「一般住宅へも普及が進めばいいのに」等の意見も多々聞かれました。参加したモニターの方々から、「現地で「現場を見る」ことの大事さ、大切さがわかりました。」「山の中でのお仕事の大変さを痛感しました。」「こんな大きな木がこんなに安いのか」等の感想をいただき、国有林や森林・林業について、理解を深めた大変有意義な勉強会となりました。

CLTを利用した木造建築（高知県森連会館）に興味津々

# 無人航空機の災害時の活用に関する勉強会を開催

〈企画調整課〉

7月28日、四国森林管理局において無人航空機の災害時の活用方法に関する勉強会を開催しました。

四国森林管理局管内では、今年3月に三好市と徳島森林管理署、5月には嶺北地域4町村と嶺北森林管理署がドローンを活用した災害活動支援協定を締結しただけでなく、仁淀川町における山岳遭難者の捜索にも協力しました。このことから、これまでの活用事例の報告と防災の観点からの今後のドローン活用の可能性について、関係機関と勉強会を開催することとしました。

勉強会には、高知県内の県警・消防本部・市町村防災担当者など約70名が参加しました。

木村業務管理官による説明

今回の勉強会では、木村業務管理官が無人航空機ドローンの基本的な機能と飛行に関する条件等について説明した後、渡辺森林技術普及専門官が実際に現場で撮影したビデオを観ながら緊急時における物の輸送の可能性について説明を行いました。

その後、庁舎駐車場においてドローンにヒモを取り付けて対象地に届けるといったデモ飛行を披露しました。

また、災害時を想定し、車両にモニターを設置し、ドローンが撮影した映像をリアルタイムで多勢で共有できることもデモとして行いました。参加者からは「静止画や動画のデータサイズはどれほどか。」などといった質問が出されました。

勉強会の様子（庁舎駐車場）

今後も引き続き、ドローン勉強会等を開催していくことで、災害時等における関係機関との連携が円滑になるよう取り組んでいきたいと考えています。

## 「針広混交林化を目指した施業に係る現地検討会」を開催

〈計画課〉

8月2日、高知県土佐町西峰山国有林において、各署等からのほか、森林総合研究所四国支所や高知県を含め、約60名が参加し、「針広混交林化を目指した施業に係る現地検討会」を開催しました。

現地検討会の様子

現地は、平成28年度に帯状複層伐が実施されていますが、平成29年4月に「日本美しの森　お薦め国有林」に選定された工石山自然休養林からの眺望に配慮することを前提に、針広混交林化に誘導するための施業のあり方や間伐等における天然更新の可能性について検討しました。

まず、参加者は2班に分かれ、伐採帯と保残帯のそれぞれに設定した植生調査プロット内において、どのような樹種が侵入しているのかを確認しました。プロット内では、ヤマグワ、モミ、アカガシ、アカシデといった高木性広葉樹について、樹木に付されたナンバーテープと図鑑を交互に見比べながら、樹種を同定し合う職員の姿がありました。

現地確認の様子

その後、参加者全員で集まり、更新方法、前生稚樹の活用方法、保育方法、残置区域の取扱いについて議論を行いました。議論の中で、参加いただいた有識者から、「当地で目指す目標林型を整理して、施業方法を選択すべき。」、「造林木の育成のためには、実生発生のパイオニア種が多い場合は下刈を省略できるが、成長が早いぼう芽更新の陰樹が多い場合は下刈が省略できない。」、「高知県内でスギ・ヒノキ人工林内に広葉樹を植栽する場合、標高が概ね850mより高標高域には落葉広葉樹を、低標高域には常緑広葉樹または周囲でみられる落葉広葉樹を植栽した方が良い。」、「ヒノキ林では、Ry※を間伐前より0・17～0・18以上は低下させないと、高木性広葉樹が低木層との競合から抜け出す高さまで育たない。」、「スギ林ではRyが0・8を超えても林床植生が貧植生にならない林分が多く見られ、弱度の間伐でも林床植生が成長する。」といった、研究に基づく貴重な意見が出されました。

※Ry：収量比数。森林の密度の相対値を示す収量の指標で、ある樹高における最大の材積を1としたときの現実の材積を割合を示したもの。

# 毎年恒例、好評の「夏休み親子ふれあい木工教室」開催

〈技術普及課〉

8月25日、当局大会議室において、公募による親子等16組、40名を対象に「夏休み親子ふれあい木工教室」を、実施しました。

この木工教室は、毎年夏休み期間中に、小学生と保護者を対象として「研究・学習の支援と身近な自然環境への関心や理解を深めること」を目的にオイスカ高知県推進協議会と共催により開催しています。

最初に、「森林教室」を行い、身近な森林が「水を蓄えたり」「山地砂災害を防いだり」「木材を生産したり」といった多面的な機能を持っていることを学びました。

次に、お待ちかねの木工教室ですが、今年は「魚梁瀬森林鉄道」が「日本遺産」に認定されたことを記念して鉄道の壁掛け製作しました。まずは、森林整備の過程で伐採した材の一部がここで有効活用されていることや、「魚梁瀬森林鉄道」の活躍の様子を話し、作品制作に移りました。

熱心に作業中

事前に木工ボランティアの方々が準備してくださったキットを使って作業しますが、親子皆が思い思いの色を塗り、工夫しながら部品を張り付け、文字を書いていくので、できあがってみると、どれ一つとして同じ作品はなく、全てが自慢の大作になりました。この壁掛けは、ゲームボードにもなるので、完成した子供達は保護者やテレビ取材のレポーターと点数を競って遊んでいました。

テレビの取材も受けました

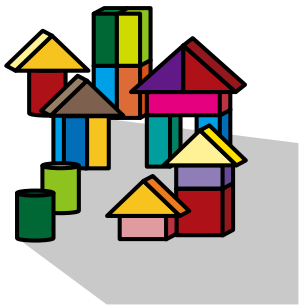
最後は、オイスカ四国研修センターで林業や農業の技術を学んでいる海外の研修生による積み木教室を行いました。

まず、研修生が母国での森林を守る取組を紹介すると、参加者は日本で目にするものとは異なる木や森の様子に熱心に聞き入っていました。

次に、ヒノキの間伐材を使って積み木教室に移ると、タワーや橋を作ったり、ハートや文字を描いたりと大量の積み木を余すことなく使って楽しく遊んでいました。

積み木タワー

参加者からは「木工制作や積み木で楽しく遊ぶだけでなく、森林の働きや森林鉄道の活躍の様子、海外での森林を守る取組など、普段はなかなか機会がない多くのこと学び充実した時間でした」との感想をいただき、主催者側も嬉しく思いながらイベントを終了しました。



# 各地のたより

## 香川労働局・林災防等と合同安全パトロールを実施

〈香川森林管理事務所〉

香川森林管理事務所では、7月24日、新目前山国有林の保育間伐（活用型）事業請負現場等において、香川労働局、高松労働基準監督署、林業・木材製造業労働災害防止協会（林災防）香川支部及び香川県みどり整備課等と合同で安全パトロールを実施しました。

事業概要を説明する香川所長

香川県内では林業・木材産業における労働災害が、事業体数が少ないにもかかわらず昨年同時期には20件以上発生し、非常に憂慮される状況でしたが、関係者が一丸となって労働災害防止に取組んだ結果、今年は4件にまで減らすことができました。

当日は、まず国有林の現場において、林業における重大災害は伐木作業によるものが全体の6割を占め、中でもかかり木処理作業が大変高い割合を占めていること、また最近は転倒・滑落による災害が多いこと等を確認した後、チェンソー伐採やスイングヤーダによる集材、プロセッサーを使った造材について、さらにその後、民有林の現場に行き下刈り作業について、点検を実施しました。

防護衣の着用等安全な服装や装備、基本動作、機械の取扱い等の点検はもとより、猛暑に見舞われたこの日は熱中症対策や突然の豪雨・雷雨への対応、ハチ刺され災害の防止等についても確認しました。

労働局担当官による聴き取り

香川労働局管内では、林業の現場を点検する機会はあまりないとのことで、労働局の担当官や労働基準監督官には、高性能林業機械が主役となって様変わりした現場作業を熱心に点検いただきました。

現場では、リスクアセスメント活動の定着やチェンソー防護衣の完全着用、ファン付き作業服の導入も進んでいます。昨年労働災害が多発したことを教訓に、その根絶を目指して引き続き関係者が一丸となって取り組んでいくことを確認し、合同パトロールを終えました。


各地のたより 目次

香川労働局・林災防等と合同安全パトロールを実施

愛媛県との林政協議会を開催

愛媛大学で森林・林業白書説明会を開催


## 愛媛県との林政協議会を開催

〈愛媛森林管理署〉

7月25日、松山市内において、「愛媛県・四国森林管理局林政協議会」が開催され、愛媛県、四国森林管理局及び当署の職員が参加しました。

会議では、今年度の新たな取組等を紹介した後、民有林と国有林の共通した課題である「木材の安定供給」、「林業事業体等の担い手対策」、「森林・林業におけるICTの活用」について、意見交換を行いました。

前向きな議論が続きました

「木材の安定供給」については、愛媛県庁が進めている森林認証取得や主伐に対する助成、県森連が一般材を市売りから協定販売に切り替えたことについて説明がありました。国有林からは、急速に伸びている米国向けの板材輸出にも対応して採材を行っていることや、国と県が連携して事業発注の見通しを公表している岐阜県の例を紹介しました。

「担い手対策」については、平成28年度の林業への新規就業者が前年に比べ30名以上増加し85名となっているが、地域的な偏りが見られること、造林作業の就労者が減少しており、特に下刈の作業者確保が問題になっていることなどが双方から報告され、その解決策として作業時期の見直しや、エリートツリーの導入、労務単価の見直し等が議論されました。

「ICTの活用」については、愛媛県が今年度から行っている3Dレーザースキャナによる森林資源計測では、人間が計測したものと同程度の精度のデータが得られたこと、西予市がICTまち・ひと・しごと創生推進事業（総務省）で導入した森林ICTプラットフォームを利用して、施業現地や所有者情報の確認に要する作業を大幅に短縮できた事例などが報告されました。国有林からは、ドローンや3Dレーザースキャナなどを導入し、災害対応、資源調査、シカ被害対策、立木販売等に活用していることを紹介しました。

今回は例年以上に、各議題で活発な議論が行われ、今後具体的な事業へ繋げるための連携を深めることを確認し、会議を終えました。

## 愛媛大学で森林・林業白書説明会を開催（林野庁って？）

〈愛媛森林管理署〉

8月2日、愛媛大学農学部森林資源コースの2・3回生等46名を対象に、森林・林業白書の説明会を開催し、当署の間島署長、谷本森林技術指導官が出席しました。

これは、愛媛大学と四国森林管理局との連携協定の下で、大学側からの要請を受けて実現したものです。

当日は、署長から、「林野庁や森林管理署はどのような仕事をしている官庁なの？」、「林業が成長産業ってホンマかいな？」といった予備知識を共有した後、平成28年度版の森林・林業白書を用いて森林や林業、木材産業の動向を説明しました。

林野庁って？

エアコンの効いた教室の昼下がり、白書と聞いただけで眠気を催しそうですが、自ら白書を購入し、書き込みをしている者もいるなど熱心に受講していました。

質疑では、木材価格の今後の動向、新しい技術に対する事業者の反応や導入していく上での国有林の役割、合法木材の利用を進める必要性、木材の利用拡大に向けた林野庁の支援等、様々な質問がありました。

説明会終了後の懇談では、入庁するには何を勉強すれば良いか、森林官の日常や女性の働く環境などについて質問があり、署長や指導官の経験も交え、ざっくばらんな会話が交わされました。

懇談の様子

当署では、今回のような白書の説明会や、実習フィールドの提供などを通して、将来を担う人材の育成の一助となるべく今後も取り組んでまいります。

第4回

# 「日本美しの森 お薦め国有林」の紹介〈保全課〉

## 滑床自然休養林

〈愛媛森林管理署管内〉

### 1 概要

所在地　愛媛県宇和島市・鬼北町・松野町

面　積　1231・89ha

レク森指定　昭和46年12月1日

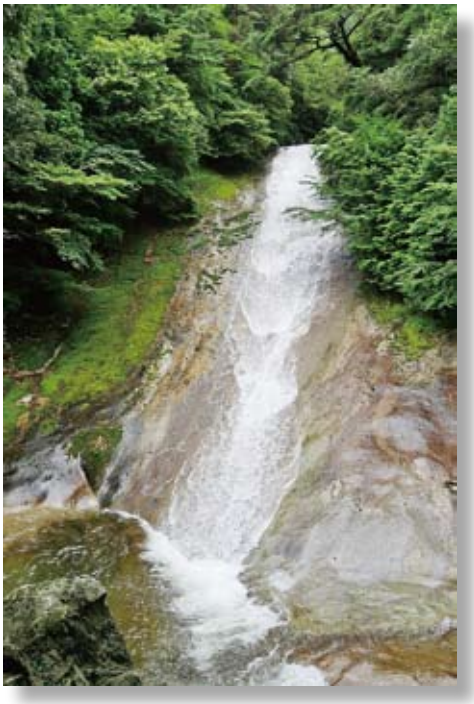
### 2 特徴

滑床自然休養林は、宇和島市、鬼北町、松野町にまたがる山岳部に位置し、その魅力は、渓谷美、山岳美、森林美の全てが備わっていることです。エリアは、滑床、成川、鬼ヶ城山系の3つに大別されますが、水系でみれば日本最後の清流といわれる四万十川の上流部にあたります。

なかでも滑床渓谷は、自然休養林内でも中心的な景勝地であり、渓流一帯は見どころでいっぱいです。

滑床渓谷の周囲には鬼ヶ城山系といわれる山々が連なっており、渓谷の北側には、鬼ヶ城山系の最高峰である高月山（1229m）がそびえ、南側には、日本三百名山の一つ、三本杭（1226m）、高知県境には八面山（1165m）があります。それらの山頂からは、宇和海のリアス式海岸を見渡すことができ、その向こうに佐田岬や、海の向こうには九州の山並みを望むこともできます。

植生は、1000mを超えると、ブナなどの冷温帯林となり、山頂付近では、ミヤコザサ、スズタケのササ原が広がっているところがあります。



雪輪の滝

### 3 みどころ

滑床自然休養林は、足摺宇和海国立公園の一角となっています。渓谷美と野生ザルで知られる滑床渓谷の名前の由来は、ほぼ全域が花崗岩から成り立っており、その岩肌が長年の浸食によって滑らかになっていることに因みます。

滑床の景観で、とりわけ美しいのが「雪輪の滝」です。高さ80メートルの滑らかな岩肌を清流がなめるように雪の輪のような水紋を残しながら流れ落ちる様は雄大にして華麗で、日本の滝100選に選ばれています。

また、渓谷には、2つに割れた巨岩の上に、バランス良く岩が乗っている「鳥居岩」があり、自然の奇跡ともいえるその姿には近寄りがたい神秘さを感じさせます。

さらに、滑らかな一枚岩の「千畳敷」や、平らな岩の上をさらさらと滑るように水が流れる「出合滑」などは、渓谷全体の岩盤が清流で洗い清められ、柔らかな滑らかさを持っています。渓谷を流れる目黒川は、鬼ヶ城山北麓四万十川水系の支流でもあり、周辺の森林は、1995年（平成7年）に「水源の森百選」の1つ「滑床水源の森」として選定されています。

そのほかにも「霧ヶ滝」、「太鼓岩」などの景勝地があり、豊かな自然の中で、野生のシカやサルも顔を出す遊歩道の散策や、キャンプ、清流を流れ下るキャニオニング、トレッキング、釣りなど、ネイチャーガイドの案内で幅広い世代が楽しめるコンテンツがあり、また「森の国ホテル」といった宿泊施設も揃っています。

みなさんも友達や家族と休日には、鬼ヶ城山系を登山して心身をリフレッシュさせ、滑床渓谷の水のせせらぎに癒やされてみませんか。

鳥居岩

千畳敷

シリーズ

# 四国の森林（もり）からこんにちは

嶺北森林管理署　寺川・長沢森林事務所
首席森林官　江入　力男

寺川・長沢森林事務所は、高知県いの町山間部の標高約６００ｍに位置し、いの町内の約７２００haの国有林を管轄しています。

筆者は中央

管内北部の国有林は、愛媛県との県境まで達し、石鎚山系の脊稜が東西に走る石鎚国定公園の一部となっています。また、四国百名山にも数えられる瓶ケ森（かめがもり）（１８９７ｍ）の南側に位置する白猪谷国有林は、吉野川の源流域となっています。

旧寒風山トンネルから瓶ケ森へ走る町道瓶ケ森線（通称：ＵＦＯライン）は、秋の紅葉シーズンはもとより、春から初夏に掛けては登山やサイクリング・渓流釣りなど、県内外から足を運ぶ人たちで賑わいをみせています。

また、管内の手箱山国有林（１８０６ｍ）には、江戸時代、土佐藩主に献上する氷を保存した貯蔵庫「氷室」の言い伝えがあり、地元の寺川、越裏門地区の方々により『氷室まつり』として再現されています。７月には、今年で27回目を迎える祭典が盛大に行われました。

一方、石鎚山系周辺においては、ニホンジカが年々増加しており、周辺の森林被害の拡大が危惧されています。当事務所では３年前から職員が囲いわな・くくりわなを設置し、ニホンジカの駆除に取り組んでいます。

加えて、いの町に所在する国有林と民有林（中江産業（株）土佐事務所所有地）を合わせ約３７００haの区域を設定し、ニホンジカによる森林被害の低減を目的とした協定を締結し、ニホンジカの有害鳥獣駆除を実施し、２年目を迎えています。こうした取り組みで国有林内においても徐々に駆除の成果が上がりはじめているところです。

最後になりますが、この石鎚山系には景色の良いスポットが沢山あります。ドライブしても良し、気軽に登山できる山もあります。

興味のある方は余暇を楽しむために、足を運ばれてはいかがでしょうか。

町道瓶ケ森線（通称：ＵＦＯライン）

氷室（２月～７月の間、氷を貯蔵）